

水の生活館



写真提供 知多市

水の生活館は、愛知県知多半島の丘陵部・佐布里池の静かな湖畔に佇む水のミュージアムです。佐布里池を築造する際に使用された木造の旧庁舎を利用して昭和51年に開館し、その後平成6年には建物や展示がリニューアルされました。社会科見学などで訪れる小学生を中心に多数の方が来場されています。

展示内容は、模型や映像など「見る、聞く、触れる」ことができるのが特徴で、水の不思議さや大切さを訴えるものとなっています。見応え十分の数ある展示の中から、ほんの一部をご紹介します。

復元模型と民具



愛知用水が完成する以前、中央部に丘陵地帯を有し、大きな川のない知多半島は、慢性的な水不足に悩まされていました。

当時の人々は、貴重な水を確保するために天秤棒で水を運ぶなど様々な苦勞をしましたが、その様子がジオラマでリアルに再現されています。

また、農作業に使った水桶、井戸を掘った道具や手押しポンプなど、かつて実際に使われた水に関する民具などが展示されています。これらは開館当初からの歴史ある展示品であり、まるで昔の人々の生活の息遣いが聞こえてくるようでした。

地形模型

ミュージアムが立地する知多半島は、水資源機構が管理する愛知用水の供給地域です。ここには愛知用水が南北を貫く愛知県西部を表した大型の地形模型が展示されています。この地形模型は、説明中の箇所、用水の流れ、施設の位置についてランプを点灯・点滅することで表現するほか、大型ビジョンと連動して愛知県の水道と工業用水道事業をわかりやすく学ぶことができます。



水の力(力持ちのカッパ君)

「カッパ君」は、愛知県企業庁のキャラクター。その前には85kgもの重さがある大きな石のボールがあり、力試しに持ち上げようとしてもうまくはいきません。この大きな石をカッパ君が持ち上げている…のではなく、下から噴き出した水が力強く持ち上げています。石のボールはスムーズに回せるほどであり、水の力強さを感じさせられます。



「佐布里池」とともに

佐布里池は、製鉄所などの重工業が集積する名古屋南部の臨海工業地帯へと供給する工業用水の原水を、愛知用水を通じて安定的に受水・確保するために、愛知県企業庁が建設した調整池であり、昭和40年に完成しました。



愛知用水幹線水路にある佐布里池の取水回(写真右)

「水の生活館

の周りをご覧くださいになりましたか。たくさんの木々が生い茂っているでしょう。」とおっしゃるのは、今回ご案内くださった愛知県企業庁の山田さん。現在は静寂な森に包まれています。佐布里池ができる以前、一帯には田畑が広がっていたようです。

「全部で120haの土地を取得しましたが、調整池の満水面は62haです。残り半分は、佐布里池をぐるりと取り囲み、水資源を良好に涵養する豊かな森を育くむために在来の樹木などを植えました。昭和47年からの100年間で自然林の森を形成する『佐布里水源の森計画』として進めています。」

佐布里池が計画・建設された当時、我が国では公害が社会問題となっており、これに加えて、周辺に急速な都市化の波が押し寄せつつあったことから、豊かな森を作り出す機運を高めたのかもしれない。

計画に沿って、今も樹木の保育のため、下草を刈り、定期的手入れするなど森づくりへの取り組みが地道に続けられています。こうした取り組みは、地元知多市や企業などの理解・協力を得て、連携しながら進められているそうです。こうして成長した森は、今や地域の貴重な緑となり、散策やジョギングなど住民に親しまれています。

水の生活館の展示でも、佐布里池と周囲の森に関する大型パネルの解説があり、これらをととても大切



にしていることが伝わってきます。森づくりにかける愛知県企業庁の姿勢は、山田さんの言葉にも表れています。

「広大な土地を活かしつつ、森と調和しながら歩んでいるところが、水の生活館の特徴であり、自慢でもあります。」

今夏は利根川、吉野川などで渇水となり、水について色々考えることの多い年となりました。水の大切さに思いを馳せるとき、水源の豊かな森づくりに真摯に取り組む佐布里池と歩む、このミュージアムを訪ねられてはいかがでしょうか。

「水の生活館」ご案内

- 所在地** 愛知県知多市佐布里^{いたちわき}字鮎脇48-1
- 開館時間** 10～16時（佐布里池梅まつり期間中を除く
10月1日～翌年2月末日は10～15時）
- 休館日** 月曜（祝日の場合は翌日）及び12月28日～1月4日（6月1日～7日と佐布里池梅まつり期間中の月曜を除く）
- 入館料** 無料
- その他** 水の生活館で佐布里池のダムカードを配布
※詳しくは、こちらをご覧ください。
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kigyo-suiji/0000010193.html>

梅の名所・佐布里

佐布里といえば「梅」、というほど地元では知られた存在です。佐布里池周辺には、25品種約5,100本の梅が植えられており、見事に花が咲き誇る2月中旬から3月中旬にかけて「佐布里池梅まつり」が催されます。それは、毎年大変な賑わいで、歴史的な街並みが残る岡田地区や美しいビーチが広がる新舞子地区などと並び、知多市の観光スポットとなっています。

周辺の観光情報は、知多市観光協会まで。

→ <http://chita-kanko.com> TEL 0562-33-3151（知多市役所内）